

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年 6月 7日

#2

出 願 番 号
Application Number:

特願2001-172545

出 願 人
Applicant(s):

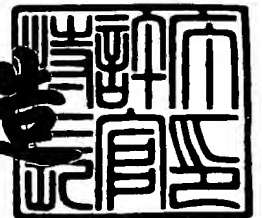
株式会社ヒダン



2001年 8月 3日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3068772

【書類名】 特許願

【整理番号】 P01HD-IN21

【提出日】 平成13年 6月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A45D 40/

【発明の名称】 化粧品容器

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県柏市花野井 6 2 7 番地 株式会社ヒダン内

 【氏名】 広富 敬治

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県柏市花野井 6 2 7 番地 株式会社ヒダン内

 【氏名】 伊藤 健一

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県柏市花野井 6 2 7 番地 株式会社ヒダン内

 【氏名】 藤田 英夫

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県柏市花野井 6 2 7 番地 株式会社ヒダン内

 【氏名】 山崎 洋

【特許出願人】

 【識別番号】 000153926

 【氏名又は名称】 株式会社ヒダン

【代理人】

 【識別番号】 100078949

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 浅野 勝美

 【電話番号】 03(3585)0120

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 特願2000-312607

 【出願日】 平成12年10月12日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 027339

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9801431

【プールの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 化粧料容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部は断続的に設けられ上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部の間に点状に設けられる点状部とからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3】 請求項 2 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に複数個配設することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 4】 請求項 2 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に 1 個設けることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 5】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部より細い連結リブとからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 6】 請求項 5 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に複数個配設することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 7】 請求項 5 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に 1 個設けることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 8】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部と同幅の連結部とからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 9】 請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が傾斜状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 10】 請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が弯曲状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 11】 請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が S 字状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 12】 請求項 5 記載の化粧料容器において、上記連結リブの上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 13】 請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部の上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 14】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記弾性部は中央部分のみ若干肉薄にすることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 15】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成されることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 16】 環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部は横断面波動状に形成され上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 17】 請求項 16 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭線が同一周期のわん曲線として形成されることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 18】 請求項 16 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭線が同一周期の屈曲線として形成されることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 1 9】 請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭線が同一形状の弧の連続線として形成されることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 0】 請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成されることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 1】 請求項 2 0 記載の化粧料容器において、上記突状部が山部より設けられることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 2】 請求項 2 0 記載の化粧料容器において、上記突状部が谷部より設けられることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 3】 環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成され、上記下部肉厚部は横断面円形状に形成され上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 4】 請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部が無端状に設けられることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 5】 請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部が断続的に設けられることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 6】 請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部の間に点状に設けられる点状部とからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 7】 請求項 2 6 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に複数個配設することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 8】 請求項 2 6 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状

部の間に 1 個設けることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2 9】 請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部より細い連結リブとからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 0】 請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に複数個設けることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 1】 請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に 1 個設けることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 2】 請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部と同幅の連結部とからなることを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 3】 請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が傾斜状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 4】 請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が弯曲状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 5】 請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が S 字状に切欠したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 6】 請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブの上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 7】 請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部の上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3 8】 請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記弾性部は中央部分のみ若干肉薄にすることを特徴とする化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本願発明は口紅容器のような化粧料容器に関し、とくに容器本体に嵌合するキャップの内側にインナーキャップを備えた化粧料容器に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来の化粧料容器は回転する操作筒体の上端部に一体に固着する中具を有する。中具は、固定した本体に対し回転しつつ固定した本体を支える。口紅を収容する化粧料ホルダは垂直方向にスライドして本体内に収容される。そして中具の上部に環状突部を設け、この環状突部に対応する環状凹部をインナーキャップに設け、両者を嵌合する。

【0003】

しかしこれによると、中具の環状突部とインナーキャップの環状凹部の位置合せがむずかしくズレを生じることがある。即ち、インナーキャップのキャップへの挿入は組立においてばら付くことがあるためである。

【0004】

また、インナーキャップの環状凹部の成形は難しいという問題があった。即ち、成形条件によりインナーキャップの全長が長くなったり短くなったりすることがあり、このような場合、環状凹部の寸法も区々となり、容器の気密性に悪影響を及ぼすのである。また環状凹部は非常に小さい溝からなるため成形条件によってはバリを生ずる。さらにインナーキャップの端面から短い距離に環状凹部を設けるとキャップが容器から遊離（いわゆる「浮き」）し易く、反対にこの距離が長いとキャップが容器に入り込み過ぎ、いずれにしても良好な嵌合状態を得ることができない。また容器の浮きが生ずると、容器の気密性は不良となる。最近の化粧料は揮発性の物質からなる成分（揮発性成分）が多く、閉蓋が完全になされないと変質の原因となる。

【0005】

また従来、容器の気密性の保持を優先すると応々にしてキャップ嵌合における円滑性を犠牲にすることが多かった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

よって、本願発明の目的は従来の化粧料容器の欠点を解消することである。

【0007】

本願発明の他の目的は、キャップ嵌合時の気密性に優れた新しい構造の化粧料

容器を供することである。

【0008】

また、従来両立するのが困難であった容器の気密性の保持とキャップ嵌合における円滑性を同時に達成する容器を供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記目的達成のため、本願発明による化粧料容器は、環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部は断続的に設けられ上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする。

また、請求項1記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部の間に点状に設けられる点状部とからなることを特徴とする。

また、請求項2記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に複数個配設することを特徴とする。

また、請求項2記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に1個設けることを特徴とする。

また、請求項1記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部より細い連結リブとからなることを特徴とする。

また、請求項5記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に複数個配設することを特徴とする。

また、請求項5記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に1個設けることを特徴とする。

また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部と同幅の連結部とからなることを特徴とする。

また、請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が傾斜状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が弯曲状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が S 字状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 5 記載の化粧料容器において、上記連結リブの上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする。

また、請求項 8 記載の化粧料容器において、上記連結部の上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする。

また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記弾性部は中央部分のみ若干肉薄にすることを特徴とする。

また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成されることを特徴とする。

また、環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部は横断面波動状に形成され上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする。

また、請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭線が同一周期のわん曲線として形成されることを特徴とする。

また、請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭

線が同一周期の屈曲線として形成されることを特徴とする。

また、請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部は横断面の外郭線が同一形状の弧の連続線として形成されることを特徴とする。

また、請求項 1 6 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成されることを特徴とする。

また、請求項 2 0 記載の化粧料容器において、上記突状部が山部より設けられることを特徴とする。

また、請求項 2 0 記載の化粧料容器において、上記突状部が谷部より設けられることを特徴とする。

また、環状突部を備えた中具及び該環状突部に係合するインナーキャップを備えたキャップからなる化粧料容器であって、該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部及び下部肉厚部を環状に設けるとともに該上部肉厚部及び下部肉厚部の間に弾性力のある弾性部を設け、該弾性部は上記中具が上記キャップに嵌合される際に上記環状突部と気密に密着するために変形され、上記下部肉厚部より下端部まで突条部が形成され、上記下部肉厚部は横断面円形状に形成され上記キャップが上記中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用し、上記上部肉厚部は無端状に設けられ上記中具が上記キャップへ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用することを特徴とする。

また、請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部が無端状に設けられることを特徴とする。

また、請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部が断続的に設けられることを特徴とする。

また、請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部の間に点状に設けられる点状部とからなることを特徴とする。

また、請求項 2 6 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に複数個配設することを特徴とする。

また、請求項 2 6 記載の化粧料容器において、上記点状部を帯状部の間に 1 個設けることを特徴とする。

また、請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部より細い連結リブとからなることを特徴とする。

また、請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に複数個設けることを特徴とする。

また、請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブを帯状部の間に 1 個設けることを特徴とする。

また、請求項 2 5 記載の化粧料容器において、上記下部肉厚部はインナーキャップの外周に環状に設けられる帯状部と、該帯状部を連結する帯状部と同幅の連結部とからなることを特徴とする。

また、請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が傾斜状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が弯曲状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部は下部が S 字状に切欠したことを特徴とする。

また、請求項 2 9 記載の化粧料容器において、上記連結リブの上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする。

また、請求項 3 2 記載の化粧料容器において、上記連結部の上方及び下方にリブを設けたことを特徴とする。

また、請求項 1 6 又は請求項 2 3 記載の化粧料容器において、上記弾性部は中央部分のみ若干肉薄にすることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

【発明の実施の形態】

図 1 及び図 2 は本願発明による化粧料容器の第一の実施形態を示す。図 1 及び図 2 において、片側は軸状の第 1 の垂直面に沿って切断され、もう片側は第 1 の面と直交する第 2 の垂直面に沿って切断されており、図 1 は不完全に蓋をした状態、図 2 は完全に蓋をした状態である。化粧料容器 1 0 は、固定した本体 1 と、本体 1 に摺嵌され口紅のような棒状の化粧料（図示省略）を収容する化粧料ホル

ダ 3 と、本体 1 を収容する回転可能な操作筒体 4 と、操作筒体 4 の周囲に一体に嵌着するケーシング 9 と、操作筒体 4 の上端部の上に一体に嵌着される中具 7 と、該中具 7 の上に機械的に適合可能なキャップ 1 1 とからなる。本体 1 は軸方向に沿って向い合う一対の長孔 2 を有する。該長孔 2 を通して化粧料ホルダ 3 の外周壁に突設した向い合う一対の係合突起 6、6 を操作筒体 4 の内面に螺旋状に設けた螺旋溝 5 に係合する。このようにして固定した本体 1 内にある化粧料ホルダ 3 は操作筒体 4 及びケーシング 9 の回転により昇降自在となっている。上記中具 7 は上部に無端状の環状突部 8 を有する。

【 0 0 1 1 】

キャップ 1 1 は内側に樹脂製のインナーキャップ 1 2 を備える。該インナーキャップ 1 2 は内周面を実質上断面円形に形成し、上記キャップ 1 1 に頂上部 1 3 及び先端部 1 4 にて固着される。該先端部 1 4 は弾力性をもたせるため外側に拡開してある。上記インナーキャップ 1 2 の外周壁には下部肉厚部 1 6 と上部肉厚部 1 7 を間隔を空けて上記環状突部 8 の突出方向に突設し、両者の間に弾性部 1 5 を形成する。本実施の形態においては、下部肉厚部 1 6、上部肉厚部 1 7 は平らな内周面と実質上断面方形状の外側突起部とにより形成される。上部肉厚部 1 7 は無端状に設けられる。インナーキャップ 1 2 の下部肉厚部 1 6 の下方に位置する部分の内周壁の全周にはぎざぎざした内面 1 8 を形成する。

【 0 0 1 2 】

図 3 以下に基づき上記下部肉厚部 1 6 の構成を詳しく説明する。図 3 は本願発明の第 1 実施例を示し、上記下部肉厚部 1 6 はインナーキャップ 1 2 の外周を 3 等分したところに環状に設けられる 3 本の帯状部 1 6 1 と、該帯状部 1 6 1 の間に点状に 3 個ずつ設けられる点状部 1 6 2 とからなる。上記点状部 1 6 2 は帯状部 1 6 1 より小の高さとされ、右肩上がりに直線上に配設される。また上記弾性部 1 5 は、厚さを上部肉厚部 1 7 の直上の部分と同厚程度とするが、外周面の中央部分のみ若干肉薄に形成する。

【 0 0 1 3 】

図 4 及び図 5 は図 3 の変形例を示す。図 4 は 3 個の点状部 1 6 2 を帯状部 1 6 1 と同じ高さに形成した場合であり、その余の構成は図 3 の場合と同様である。

図5は点状部162の形成を帯状部161の間に各1個とした場合であり、その余の構成は図3の場合と同様である。

【0014】

上記した第1の実施の形態において、キャップ11が中具7に嵌合する際、環状突部8は当初、図1(B)に最も良く示すように、インナーキャップ12のぎざぎざした内面18に接触している。その後キャップ11へ下方方向の力Fが加わると、図2(B)に示すように、下部肉厚部16が中具7の環状突部8を乗り越える。この状態で、即ち、環状突部8を上下から挟んだ状態で、インナーキャップ12が停止したとき、弾性変形力の大なる弾性部15が中具7の環状突部8に密着するのである。よって、容器10の気密性が確実となり、とくに揮発性成分の多い化粧料の変質の防止に効果がある。上部肉厚部17も弾性変形力が小であるため、嵌合の際の中具7の下方への過度の押圧を抑止するストッパ効果がある。下部肉厚部16はインナーキャップ12が不用意に脱落するのを防ぐストッパ効果がある。そして弾性部15は、成形条件による寸法の変動がない略ストレートの管状に形成されているため、インナーキャップ12のキャップ11への組立てにおいて多少のばら付きがあつたとしても、図2(B)に示すように、環状突部8との嵌合時に位置合わせがずれるというおそれがない。

【0015】

この点をさらに詳しく説明する。下部肉厚部16が中具7の環状突部8を乗り越えるとき、インナーキャップ12には拡開に伴う大なる力が加わる。しかし、下部肉厚部16は断続状に設置されているため外側に広がり易く、これによりインナーキャップ12が拡開するときの力を分散吸収するとともに、上記乗り越えるときの力Fも小さくて済むのである。よって、従来キャップ11の嵌合時に生じていた反嵌合方向の力、即ち、押し戻されるような力を生ぜず、キャップ11の嵌合を違和感なく円滑に行なうことができる。また、帯状部161の間には点状部162が点状に存在するため、キャップ11が嵌合した後のインナーキャップ12の復元も迅速かつ円滑となる。よって、この面からも容器の気密性保持に資する。さらに弾性部15は中央部分のみ若干肉薄に形成されているため、嵌合に際しこの肉薄部の上下の部分が各々上下方向に広がり易くなって嵌合がさらに

容易となる。また嵌合後は弾性部 1 5 の復元が迅速となるため、環状突部 8 との密着性がさらに増大し、容器の気密性保持に資するのである。

【 0 0 1 6 】

また、インナーキャップ 1 2 は内周面を実質上断面円形に形成するとともに、下部肉厚部 1 6 と上部肉厚部 1 7 との間（弾性部 1 5）に縦方向の距離が長く形成されるから、中具 7 の環状突部 8 の上下方向の位置ズレを吸収し、中具 7 とインナーキャップ 1 2 との位置合わせが非常に容易となる。よって、従来生じていたキャップ 1 1 が容器に対して遊離してしまういわゆる「浮き」の現象を防止し、容器の気密性が保持されるのである。

【 0 0 1 7 】

また、インナーキャップ 1 2 の下部肉厚部 1 6 が断続状に設置されているため、中具 7 とインナーキャップ 1 2 との気密性（即ち、容器の気密性）が中具 7 の環状突部 8 の径の大小に影響されず、各部品の寸法許容性が大となる。けだし、インナーキャップ 1 2 の下部肉厚部 1 6 を無端状に形成した場合において、中具 7 の環状突部 8 が径大であると下部肉厚部 1 6 の乗り越え力 F が大となり、キャップ嵌合時の円滑な着脱ができない。一方中具 7 の環状突部 8 が径小であると下部肉厚部 1 6 の乗り越え力 F が小となり、キャップ嵌合が不能となるからである。

【 0 0 1 8 】

さらに、上記した第 1 の実施の形態の場合、下部肉厚部 1 6 に点状部 1 6 2 が介在するため帯状部 1 6 1 間の隙間が大となり、このため、インナーキャップ 1 2 の拡開時の力をより分散吸収し易くなり、嵌合がより円滑に行われる。また容器の気密性に関しても、図 4 の場合は嵌合後点状部 1 6 2 がキャップ 1 1 の内周面に密着するため、一層良好となる。

【 0 0 1 9 】

図 6 は本願発明の第 1 の実施の形態の他の実施例を示す。下部肉厚部 1 6 はインナーキャップ 1 2 の外周を 3 等分したところに環状に設けられる 3 個の帯状部 1 6 1 と、該帯状部 1 6 1 を連結する帯状部 1 6 1 より細い半球状の連結リブ 1 6 3 とからなる。上記連結リブ 1 6 3 は帯状部 1 6 1 より小の高さに形成される

。連結リブ 1 6 3 の上方及び下方の近傍には半球状のリブ 1 6 4 を連結リブ 1 6 3 に平行に設ける。本実施例のその余の構成は図 3 の場合と同様である。

【 0 0 2 0 】

図 7 は図 6 の変形例を示し、連結リブ 1 6 3 及びリブ 1 6 4 を帯状部 1 6 1 と同じ高さに形成した場合であり、その余の構成は図 3 の場合と同様である。

【 0 0 2 1 】

よって、この実施例においても前記と同様の作用、効果を奏する。例えば、下部肉厚部 1 6 は帯状部 1 6 1 が断続的に設けられるため、インナーキャップ 1 2 が拡開し易くなる。また連結リブ 1 6 3 の上方及び下方の近傍にリブ 1 6 4 を設けてあるので気密性も良好となる。とくに上方のリブ 1 6 4 に関しては中具 7 の環状突部 8 の上下方向の位置ズレの吸収に資する。

【 0 0 2 2 】

図 8 は本願発明の第 1 の実施の形態のさらに他の実施例を示す。下部肉厚部 1 6 はインナーキャップ 1 2 の外周を 3 等分したところに環状に設けられる 3 個の帯状部 1 6 1 と、該帯状部 1 6 1 を連結する連結部 1 6 5 とからなる。該連結部 1 6 5 は帯状部 1 6 1 と同幅かつ同高であって、下部 1 6 5 a を傾斜状に切欠して形成される。連結部 1 6 5 の上方及び下方には半球状のリブ 1 6 4 を連結部 1 6 5 に平行に設ける。本実施の形態のその余の構成は図 3 の場合と同様である。

【 0 0 2 3 】

図 9 及び図 1 0 は図 8 の連結部 1 6 5 の形状を変形した場合を示す。図 9 は連結部 1 6 5 の下部 1 6 5 b を湾曲状に切欠した場合である。図 1 0 は連結部 1 6 5 の下部 1 6 5 c を S 字状に切欠した場合である。その余の構成は図 8 の場合と同様である。

【 0 0 2 4 】

よって、この実施例においても前記と同様の作用、効果を奏する。この場合はとくに、連結部 1 6 5 の下部に設けた切欠部 1 6 5 a、1 6 5 b、1 6 5 c は、中具 7 の環状突部 8 が嵌合に際し当接するとき、上部 1 6 5' が少し内側（中具 7 側）に下部 1 6 5 a、1 6 5 b、1 6 5 c が少し外側に倒れ易くなるため、下部肉厚部 1 6 が環状突部 8 を乗り越えるときの力 F も小さくて済むのである。よ

って嵌合が円滑に行われる。また連結部 165 は帯状部 161 と同高であるので、容器の気密性に関しても、嵌合後連結部 165 がキャップ 11 の内周面に密着するため、一層良好となる。

【0025】

図 11 乃至図 15 は本願発明による化粧品容器の第二の実施の形態を示す。この場合、下部肉厚部 16 は横断面が波動状に形成される。図 11 は、その (D) に最もよく示すように、波動状面を横断面の外郭線 16a が同一周期のわん曲線として形成される場合である。この場合、下部肉厚部 16 は無端状に設けられている。下部肉厚部 16 は、また、図 11 (E) に最もよく示すように縦断面 16b が弧状に形成されている。

【0026】

図 12 は図 11 の変形例を示す。即ち、下部肉厚部 16 の波動状面には、横断面の外郭線 16a の一部に直線状の部分 16c が含まれていてもよい。

【0027】

図 13 は、下部肉厚部 16 の波動状面を横断面の外郭線 16d が同一周期の屈曲線として形成される場合である。

【0028】

図 14 は、下部肉厚部 16 の波動状面を横断面の外郭線 16e が同一形状の弧の連続線として形成される場合である。

【0029】

これらの場合、図 15 に示すように、横断面波動状の下部肉厚部 16 より下端部 19 まで複数の突条部 166 を設けることとしてもよい (図 15 (A))。この場合、該突条部 166 は波動状面の山部 16m より発してもよいし (図 15 (D))、谷部 16n より発してもよい。

【0030】

上記図 11 乃至図 15 いずれの実施例もその余の構成は第一の実施の形態の場合と同様である。

【0031】

第二の実施の形態の場合、下部肉厚部 16 が横断面波動状に形成されているた

め、無端状に設けられているにもかかわらず、インナーキャップ 1 2 の挿入において下部肉厚部 1 6 が外側に広がり易くなり、これによりインナーキャップ 1 2 が拡開するときの力を分散吸収するとともに、上記乗り越えるときの力 F も小さくて済むのである。よって、キャップ 1 1 の嵌合を違和感なく円滑に行なうことができる。また下部肉厚部 1 6 が無端状に連続して設けられているため、キャップ 1 1 が嵌合した後のインナーキャップ 1 2 の復元も迅速かつ円滑となる。よって容器の気密性保持に資する。また下部肉厚部 1 6 より下方に縦方向の突条部 1 6 6 を設けた場合、下部肉厚部 1 6 の高さにかかわらず、容器へのキャップ 1 1 の嵌合状態を良好に保つことができる。このためキャップ 1 1 の脱離を防止することができ、また容器の気密性も一層向上する効果がある。

【 0 0 3 2 】

第二の実施の形態において、弾性部 1 5 の構成を中央部分のみ若干肉薄に形成すれば、第一の実施の形態で述べたように嵌合がさらに容易となる。また嵌合後は弾性部 1 5 の復元が迅速となるため、環状突部 8 との密着性がさらに増大し、容器の気密性保持に資する。また、インナーキャップ 1 2 は内周面を実質上断面円形に形成するとともに、下部肉厚部 1 6 と上部肉厚部 1 7 との間（弾性部 1 5 ）に縦方向の距離が長く形成されるから、第一の実施の形態で述べたように中具 7 とインナーキャップ 1 2 との位置合わせが非常に容易となり、「浮き」の現象を防止し、容器の気密性が保持される。

【 0 0 3 3 】

第二の実施の形態においても、第一の実施の形態同様、下部肉厚部 1 6 を断続的に設けることもできる。この場合は前記した図 1 乃至図 1 0 の実施例にならうことになるので、図示及び説明は省略する。

【 0 0 3 4 】

図 1 6 乃至図 1 8 は本願発明による化粧品容器の第三の実施の形態を示す。この場合、下部肉厚部 1 6 より下端部まで複数の突条部 1 6 6 を設ける。下部肉厚部 1 6 の横断面は円形状となっている。本実施例のその余の構成は第二の実施の形態（図 1 5 ）の場合と同様である。

【 0 0 3 5 】

図17及び図18は図16の変形例を示す。図17の場合、下部肉厚部16は横断面が円形状に形成されるとともに、3個の部分に断続的に分割されている。図18の場合、下部肉厚部16は多くの部分に分断されている。

【0036】

よって、第三の実施の形態においても前記と同様の作用、効果を奏する。例えば、下部肉厚部16より下方に縦方向の突条部166を設けてあるから、下部肉厚部16の高さにかかわらず、容器へのキャップ11の嵌合状態を良好に保つことができる。このためキャップ11の脱離を防止することができ、また容器の気密性も一層向上する効果がある。また下部肉厚部16を無端状に連続して設けた場合には、キャップ11が嵌合した後のインナーキャップ12の復元も迅速かつ円滑となる。よって容器の気密性保持に資する。また下部肉厚部16を断続的に設けられた場合には、インナーキャップ12が拡開し易くなる。

【0037】

本願発明の望ましい実施の形態を添付図面に関連して詳説してきたが、特許請求の範囲で定めた発明の精神に反することなく変更や修正が数多くなされうる。

【0038】

例えば、下部肉厚部16を断続的に設ける場合、その個数は任意であり、また分割を等分にするか不等分にするかは任意である。

【0039】

点状部162又は連結リブ163の個数、高さ、配設の態様については任意である。

【0040】

またリブ164を設けない場合も考えられる。

【0041】

インナーキャップ12の下部肉厚部16、上部肉厚部17の縦断面形状は任意であるが、図示した如き断面方形状とすれば、上下の肉厚部16、17のキャップ11の内周壁への接触面積が増大するので、容器の気密性向上の上から一層望ましい。

【0042】

弾性部 15 は弾性力が付与されるようなものであれば、その形状又は肉厚の程度は任意である。例えば、弾性部 15 全体を上部肉厚部 17 の直上の部分より薄くしてもよく、また弾性部 15 全体を上部肉厚部 17 の直上の部分より厚くしてもよい。

【0043】

突条部 166 の設置に関し、第一の実施の形態による下部肉厚部 16 に突条部 166 を設置することとしてもよい。

【0044】

インナーキャップ 12 の形状は、弾性部 15 が上部肉厚部 17 と下部肉厚部 16 との間に形成されさえすれば、その余の形状は任意である。例えば、インナーキャップ 12 の上部肉厚部 17 の上方に位置する部分の内周面の肉厚を厚く形成してもよい。この場合は、キャップ嵌合時に中具 7 の上端部に接触するから、容器 10 の気密性の一層の向上を図ることができる。また、インナーキャップ 12 の下方に位置する部分の肉厚を薄くすることにより、キャップ嵌合を容易にすることができる。

【0045】

中具 7 の環状突部 8 の形状は任意である。また、中具 7 の環状突部 8 の個数は任意である。環状突部は複数設けてもよい。かかる場合、キャップ嵌合時に、図示しない下部の環状突部はインナーキャップ 12 の弾性部 15 に係合し、一方図示しない上部の環状突部は上部肉厚部 17 の上方に位置することになる。換言すれば、下部肉厚部 16、下部の環状突部、上部肉厚部 17、上部の環状突部とジグザグに密接するので、容器が二重の気密となり一層望ましい。

【0046】

本願発明による化粧品容器は一般には円筒形状であるが、容器の形状、大きさ、材質は問わない。本願発明による化粧品容器は特に口紅容器として使用されるが、揮発性成分の有無に関わらず、あらゆる化粧品に使用してもよい。

【0047】

【発明の効果】

このように、本願発明による化粧品容器によれば、キャップ嵌合時の容器の気

密性を向上せしめることができる。また容器の気密性の保持とキャップ嵌合における円滑性を同時に達成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本願発明による化粧料容器の第一実施の形態を示し、不完全に蓋をした状態であり、(B)は(A)のA部分の拡大図である。

【図 2】

本願発明による化粧料容器の第一実施の形態を示し、完全に蓋をした状態であり、(B)は(A)のB部分の拡大図である。

【図 3】

図 1 のインナーキャップを示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、Cは(A)のC-C断面図、Dは(A)のD-D断面図、(E)は(A)のE部分の拡大図、(F)は(B)のF部分の拡大図である。

【図 4】

図 3 の変形例を示し、(A)は正面中央縦断面図、(B)は(A)のB部分の拡大図である。

【図 5】

図 3 のさらに別の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(B)のC部分の拡大図である。

【図 6】

本願発明による第一実施の形態の他の実施例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、Cは(A)のC-C断面図、Dは(A)のD-D断面図、(E)は(B)のE部分の拡大図である。

【図 7】

図 6 の変形例を示し、(A)は正面中央縦断面図、(B)は(A)のB部分の拡大図である。

【図 8】

本願発明による第一実施の形態のさらに他の実施例を示し、(A)は一部を切

断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、Cは(A)のC-C断面図、Dは(A)のD-D断面図、(E)は(B)のE部分の拡大図、(F)は嵌合時のE部分の拡大図である。

【図9】

図8の変形例を示し、(A)は正面中央縦断面図、(B)は(A)のB部分の拡大図、(C)は嵌合時のB部分の拡大図である。

【図10】

図8のさらに別の変形例を示し、(A)は正面中央縦断面図、(B)は(A)のB部分の拡大図、(C)は嵌合時のB部分の拡大図である。

【図11】

本願発明による化粧品容器の第二実施の形態を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(A)のC部分の拡大図、(D)は(B)のD部分の拡大図、(E)は(C)のE部分の拡大図である。

【図12】

図11の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(B)のC部分の拡大図である。

【図13】

図11の他の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(B)のC部分の拡大図である。

【図14】

図11のさらに他の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(B)のC部分の拡大図である。

【図15】

図11のさらに他の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図、(C)は(A)のC部分の拡大図、(D)は(B)のD部分の拡大図、(E)は(C)のE部分の拡大図である。

【図16】

本願発明による化粧品容器の第三実施の形態の一の実施例を示し、(A)は一

部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図である。

【図 1 7】

図 1 6 の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図である。

【図 1 8】

図 1 6 の他の変形例を示し、(A)は一部を切断した状態の正面図、(B)は(A)のB-B断面図である。

【符号の説明】

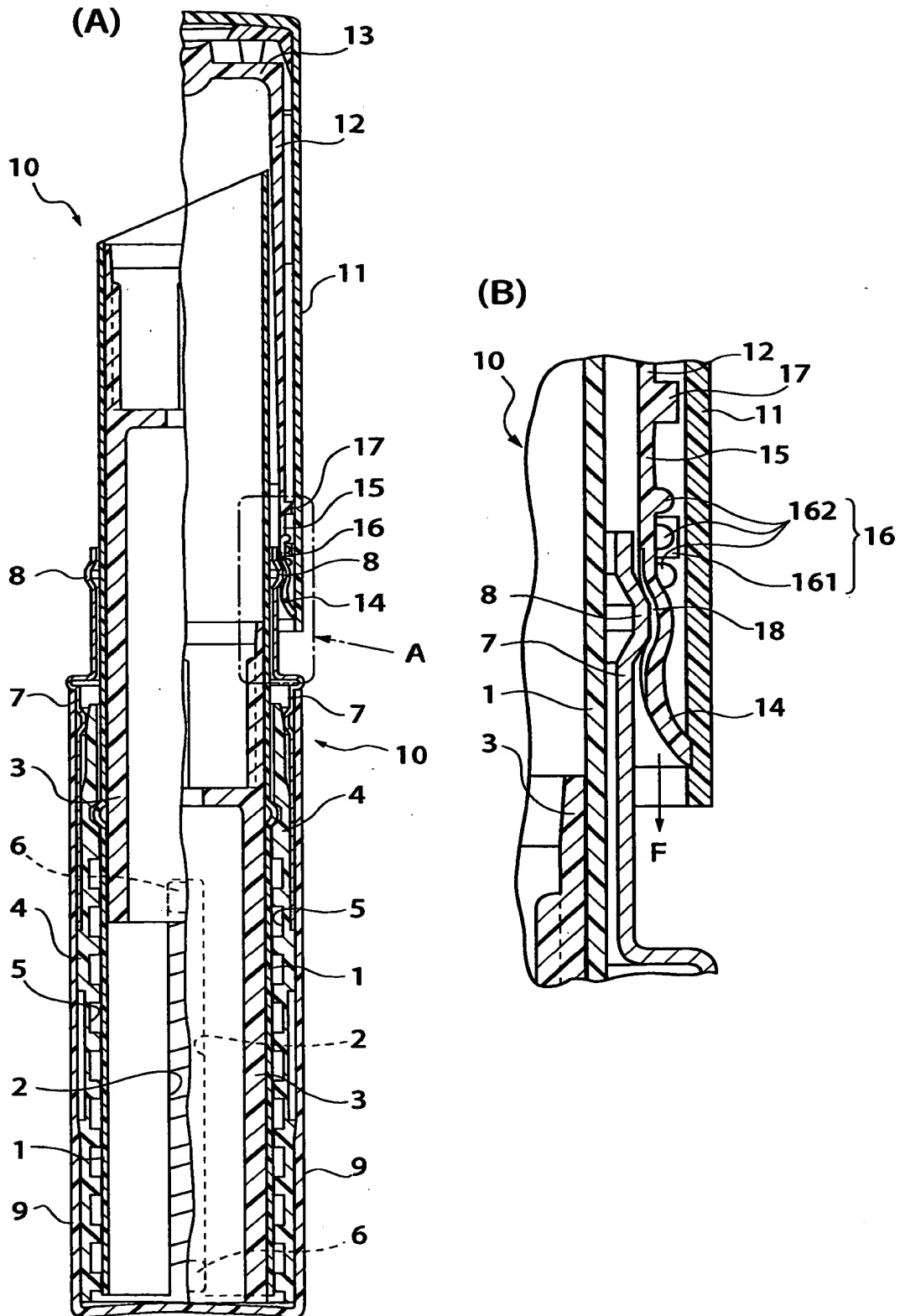
- | | |
|-------|----------|
| 1 | 本体 |
| 2 | 長孔 |
| 3 | 化粧料ホルダ |
| 4 | 操作筒体 |
| 5 | 螺旋溝 |
| 6 | 係合突起 |
| 7 | 中具 |
| 8 | 環状突部 |
| 8 a | 下部突部 |
| 8 b | 上部突部 |
| 9 | ケーシング |
| 1 0 | 化粧料容器 |
| 1 1 | キャップ |
| 1 2 | インナーキャップ |
| 1 3 | 頂上部 |
| 1 4 | 先端部 |
| 1 5 | 弾性部 |
| 1 6 | 下部肉厚部 |
| 1 6 a | 直線状部分 |
| 1 6 1 | 帯状部 |
| 1 6 2 | 点状部 |

- 163 連結リブ
- 164 リブ
- 165 連結部
- 165a 傾斜状切欠部
- 165b 弯曲状切欠部
- 165c S字状切欠部
- 166 突条部
- 17 上部肉厚部
- 18 ぎざぎざの内面
- 19 下端部

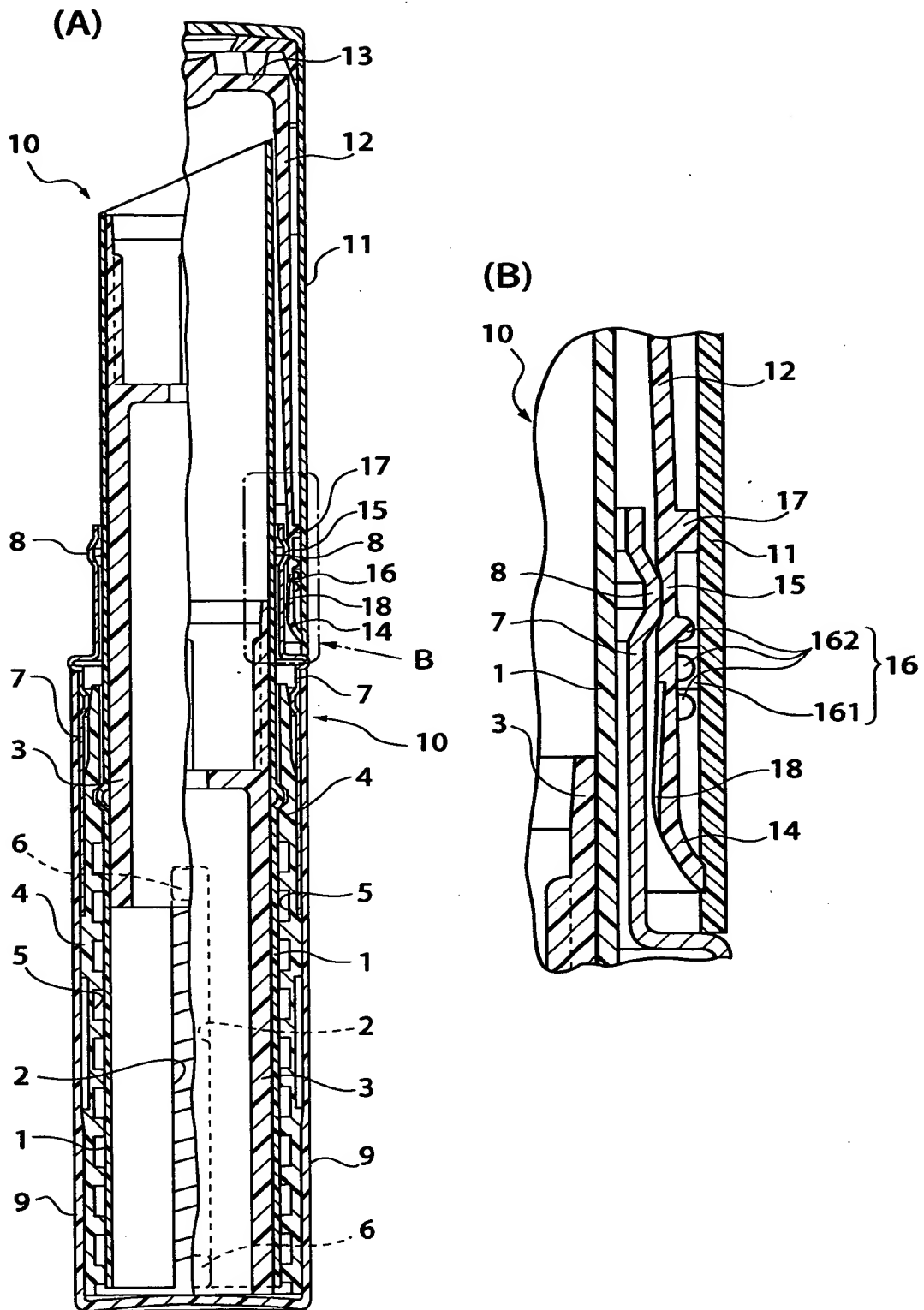
【書類名】

図面

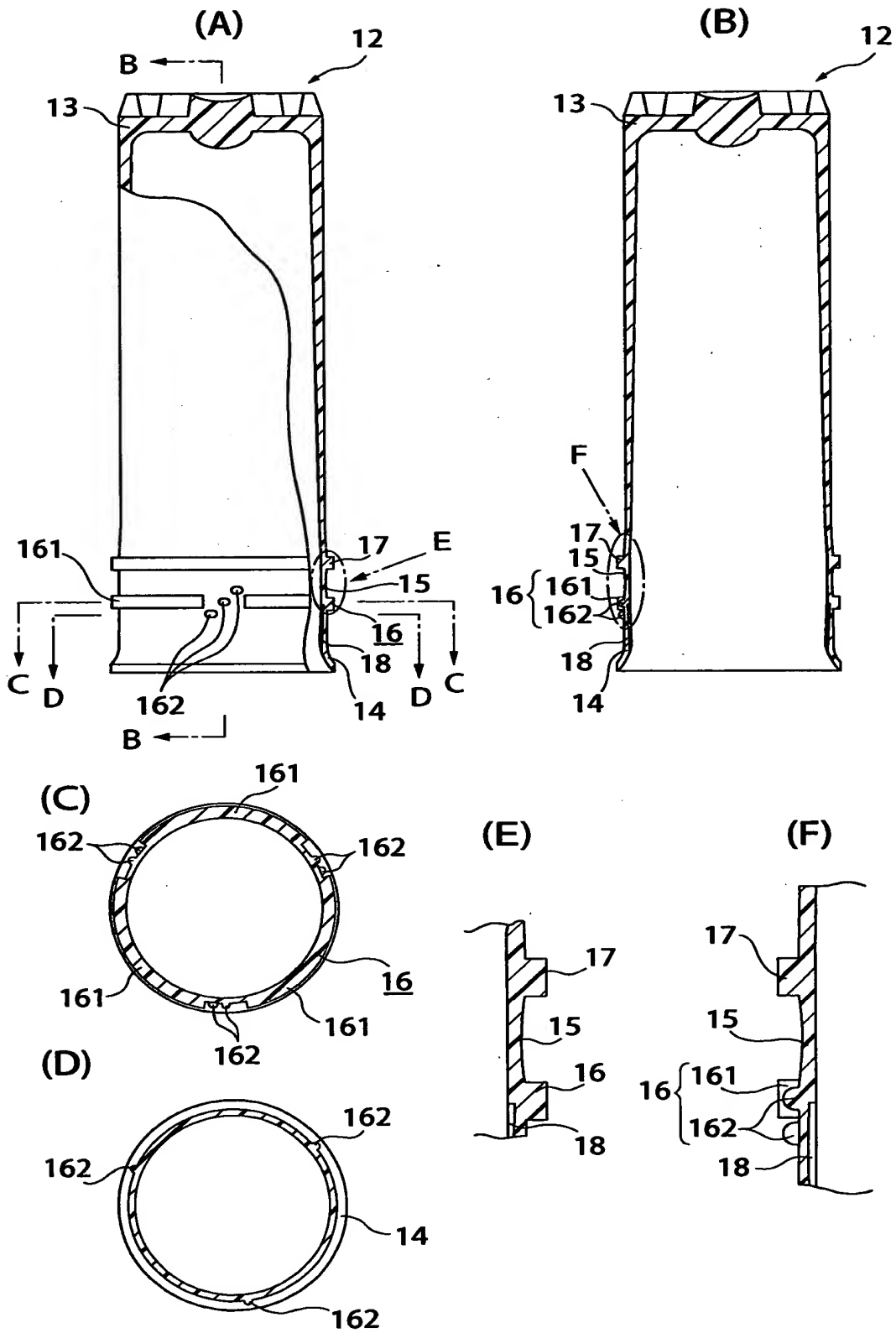
【図 1】



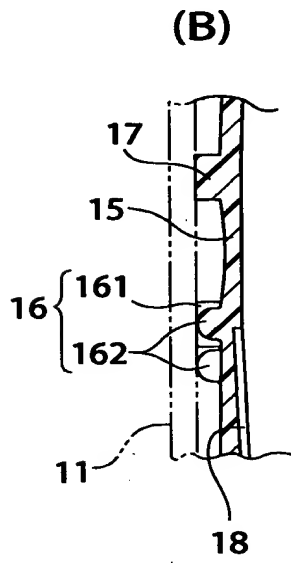
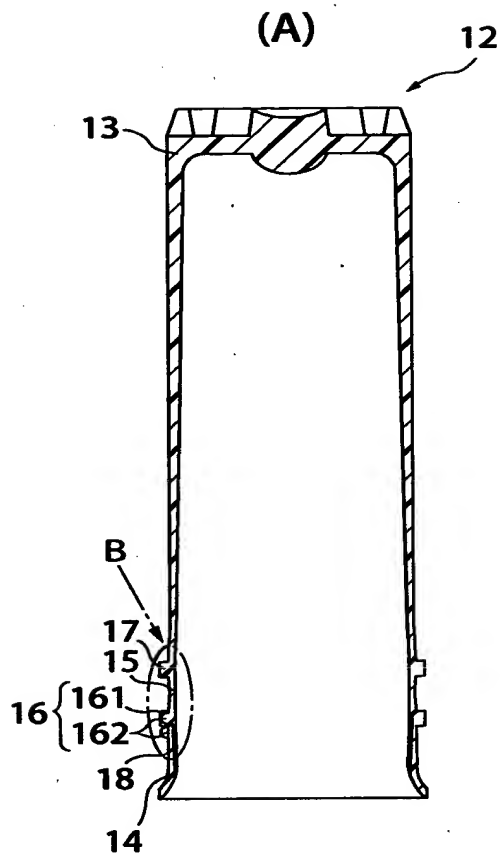
【図 2】



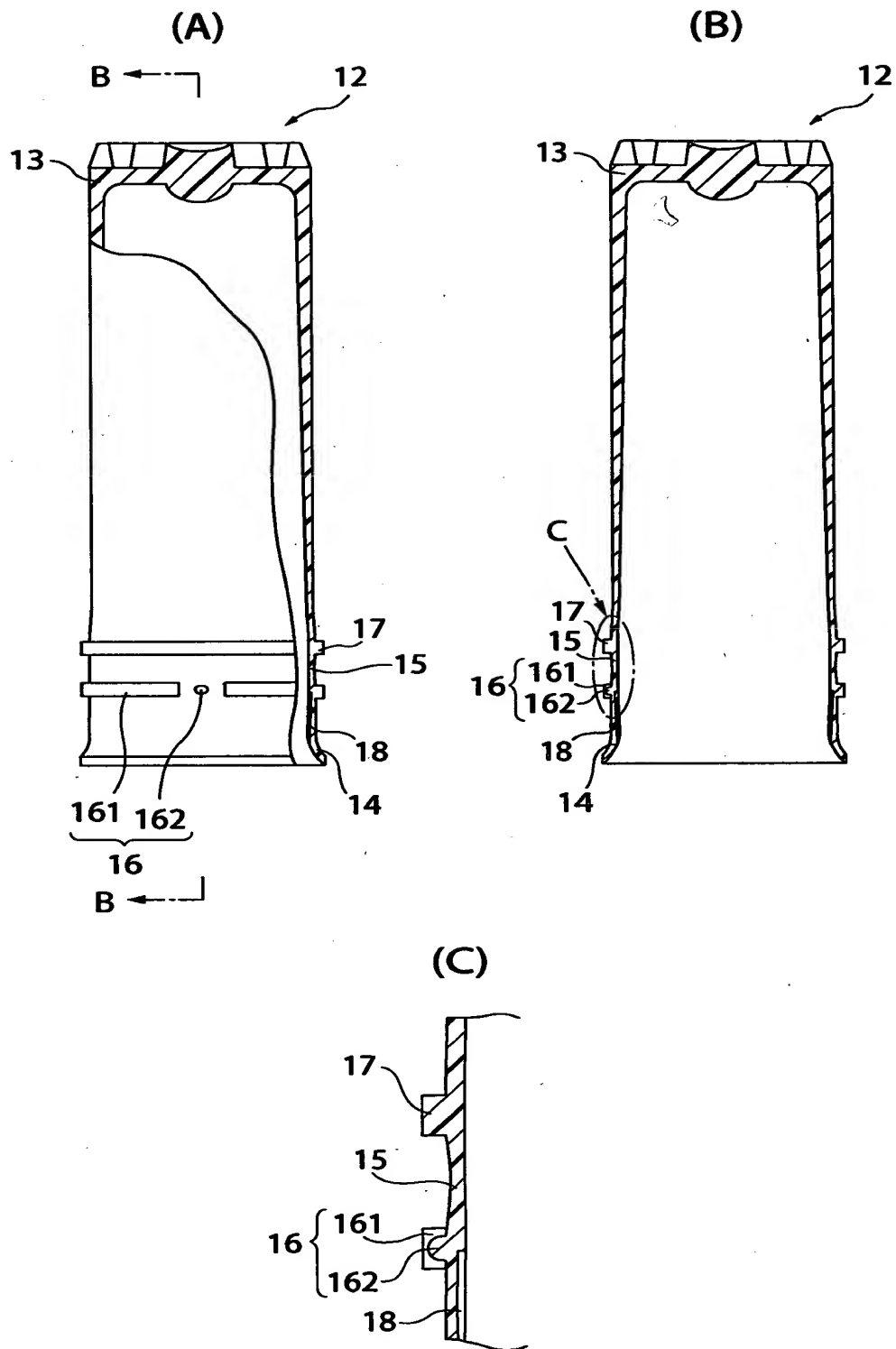
【図 3】



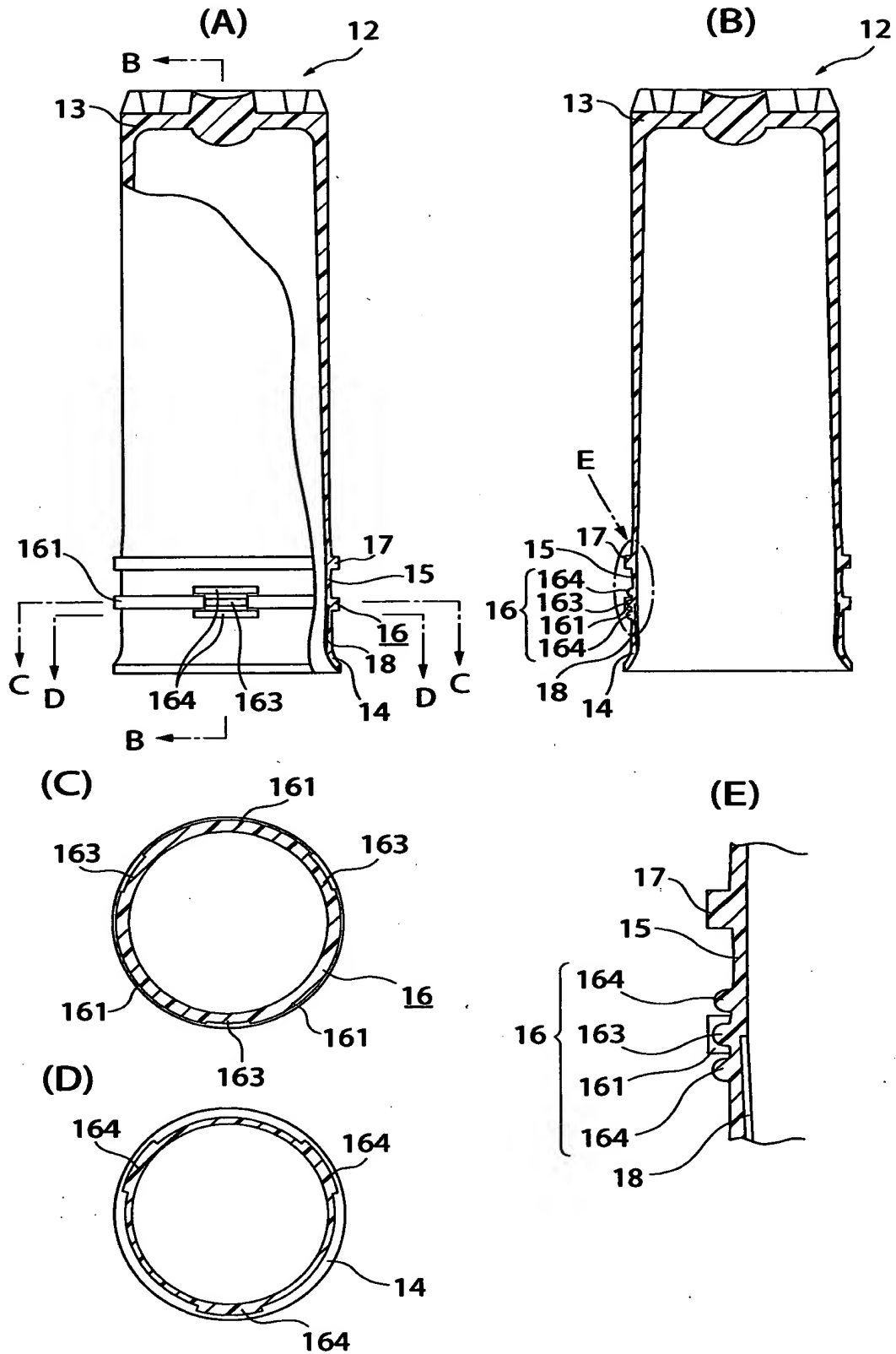
【図 4】



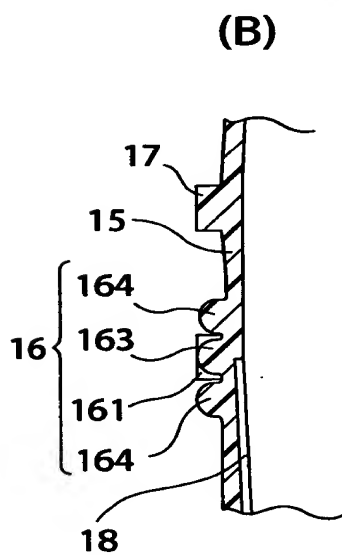
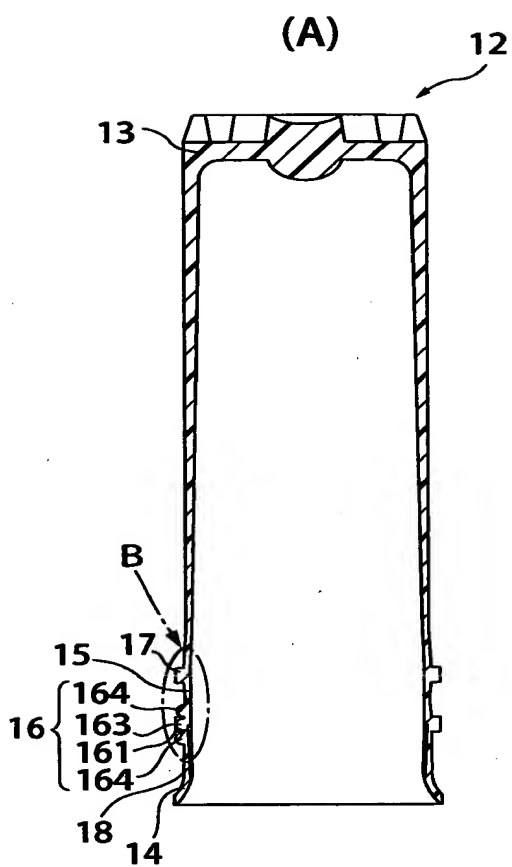
【図5】



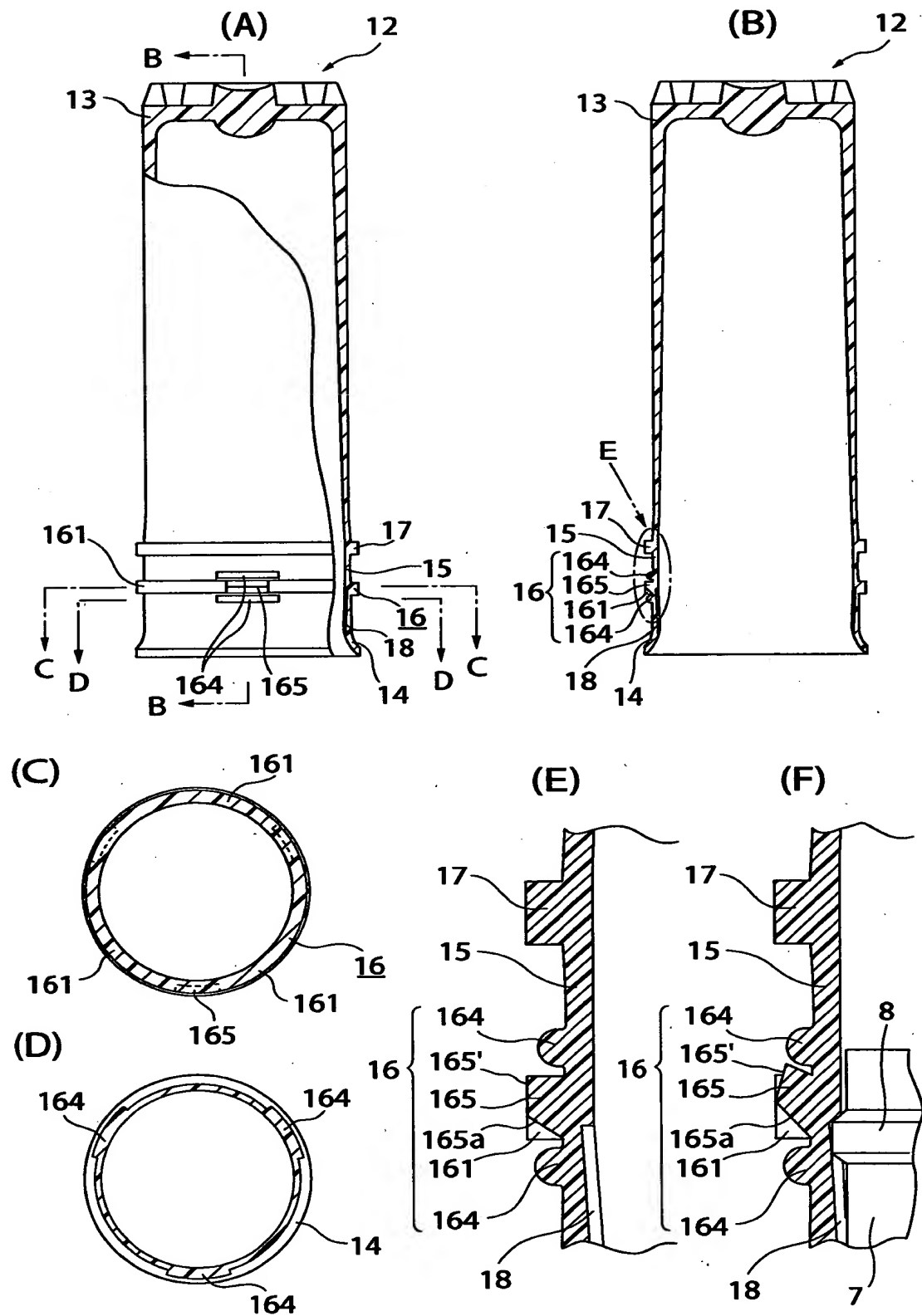
【図 6】



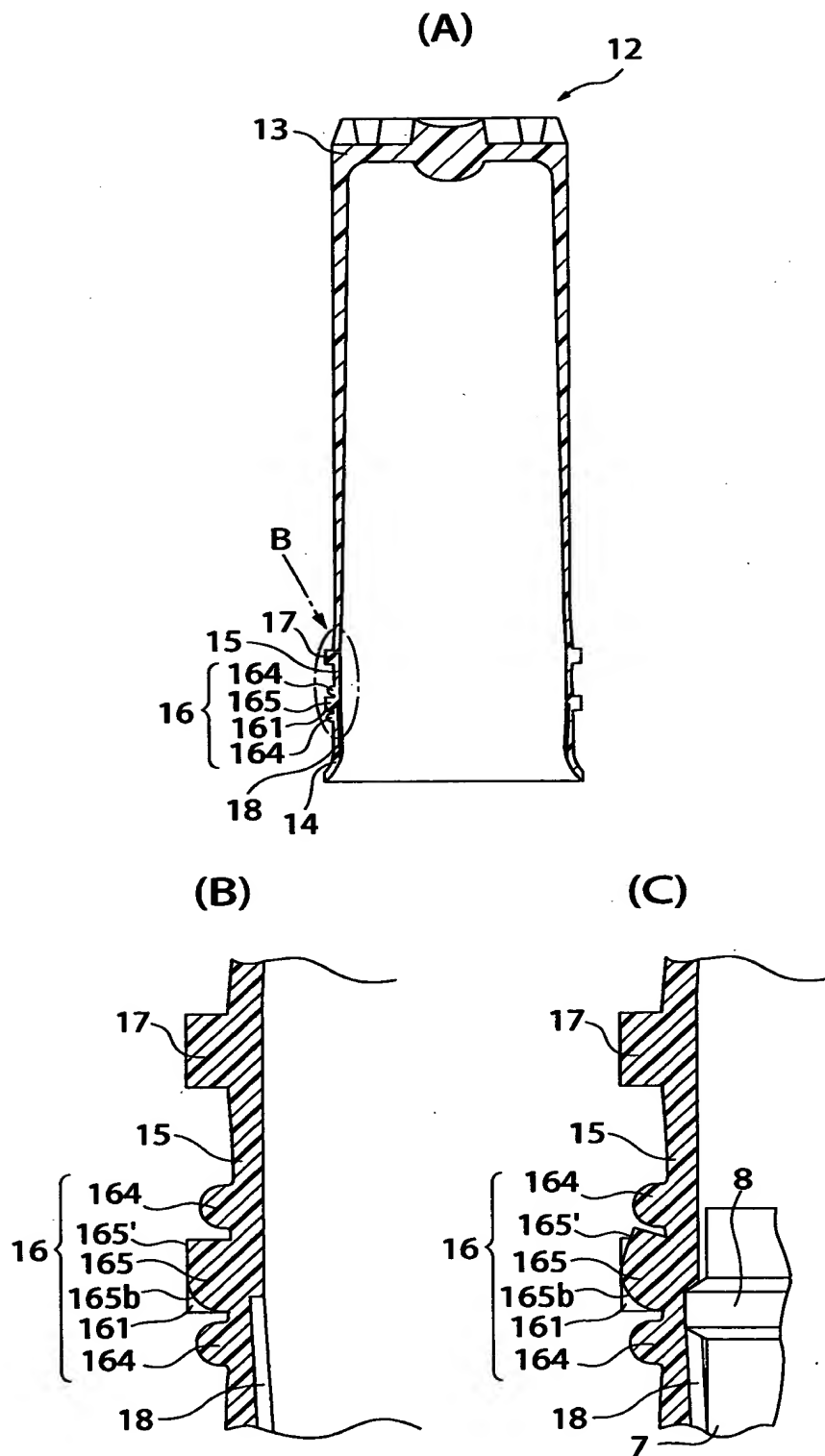
【図 7】



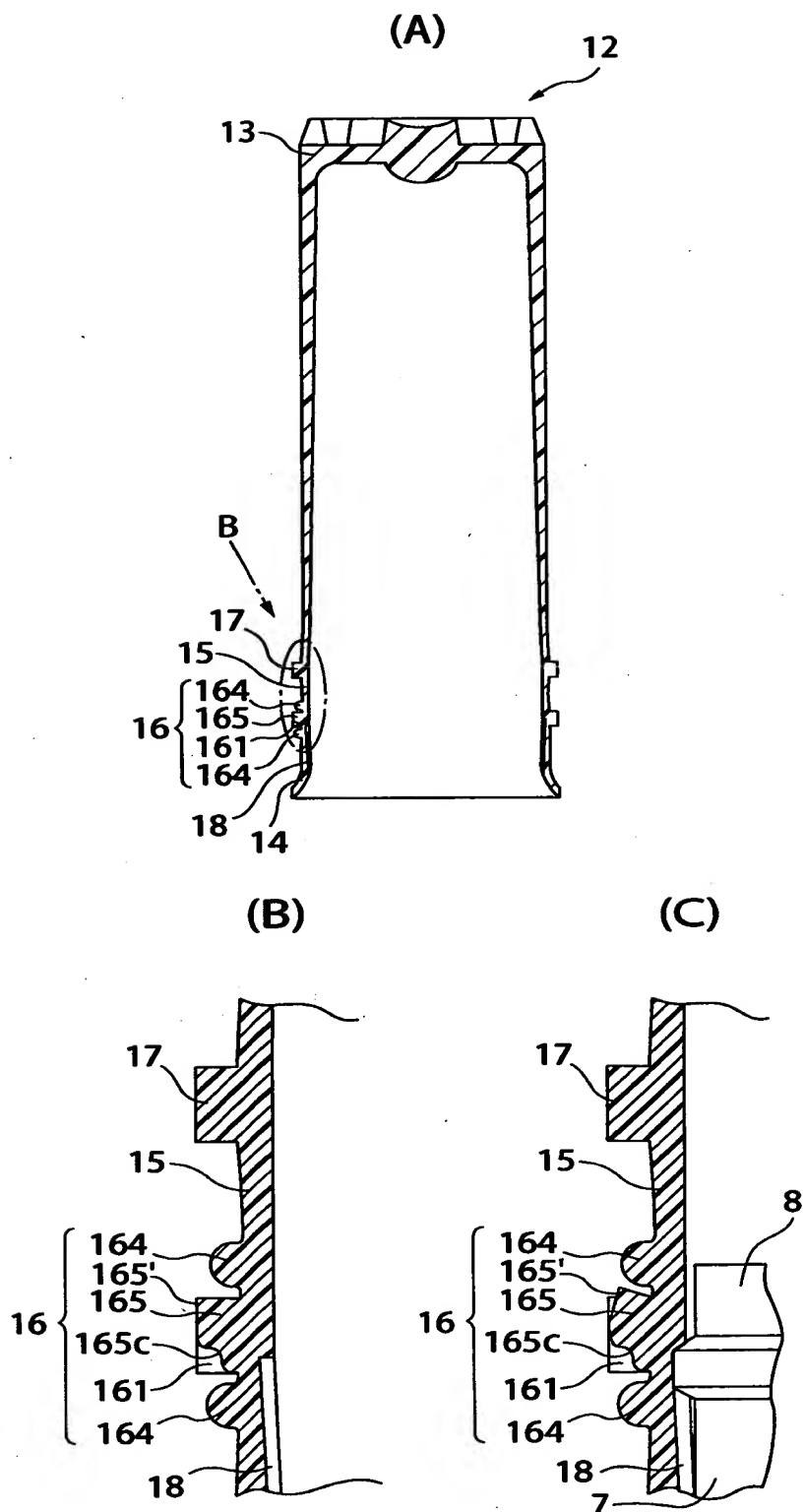
【図 8】



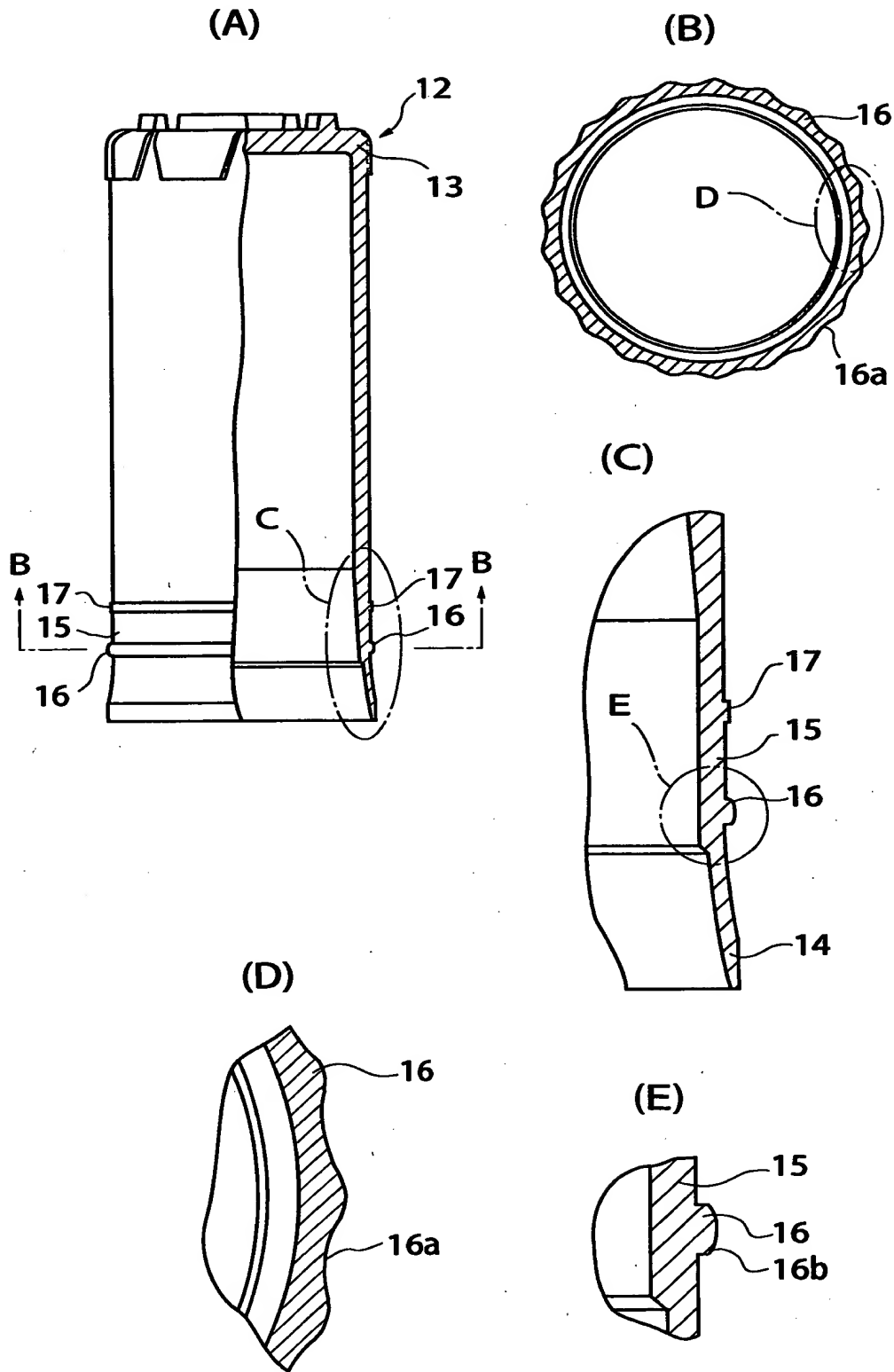
【図9】



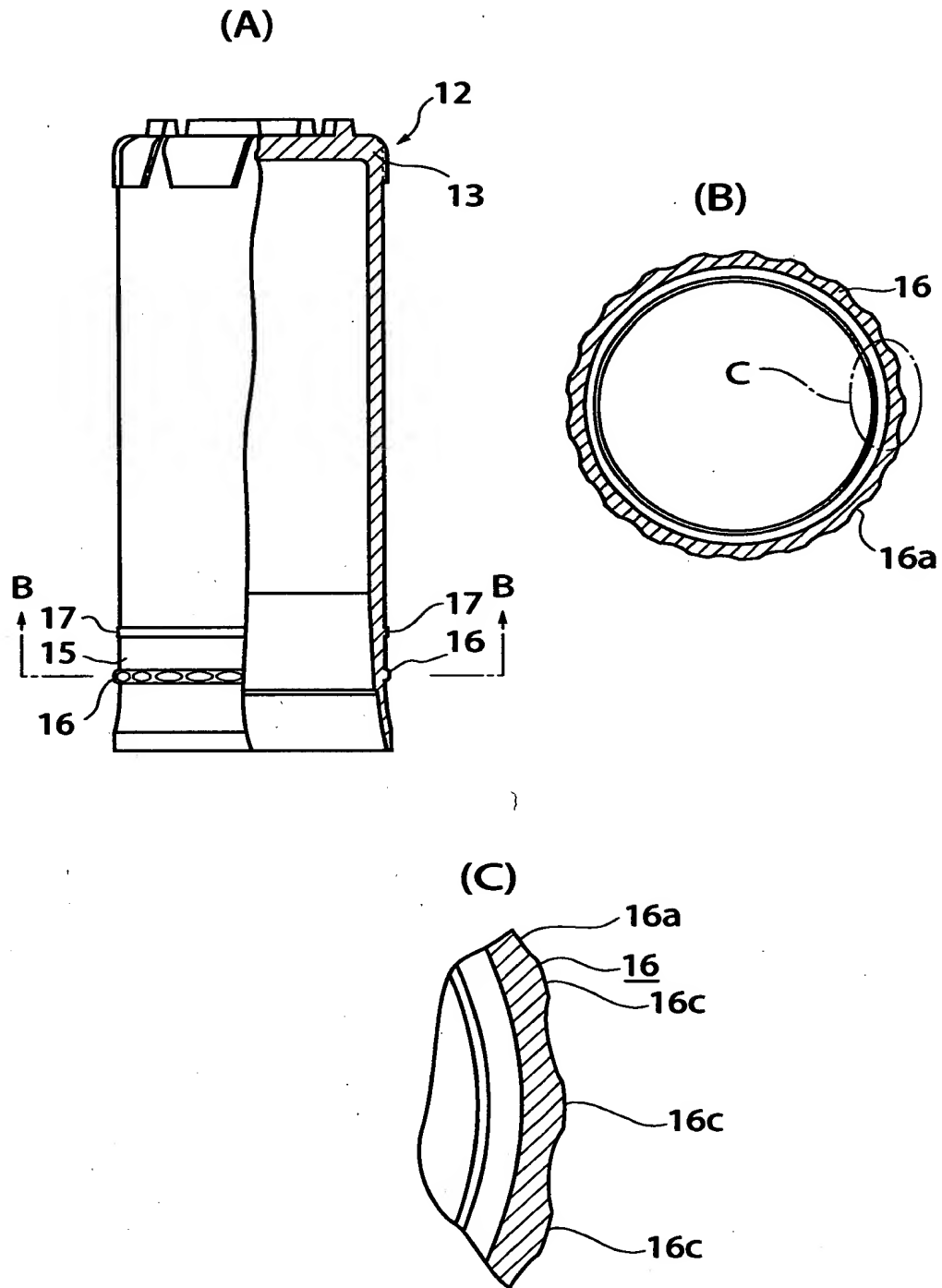
【図10】



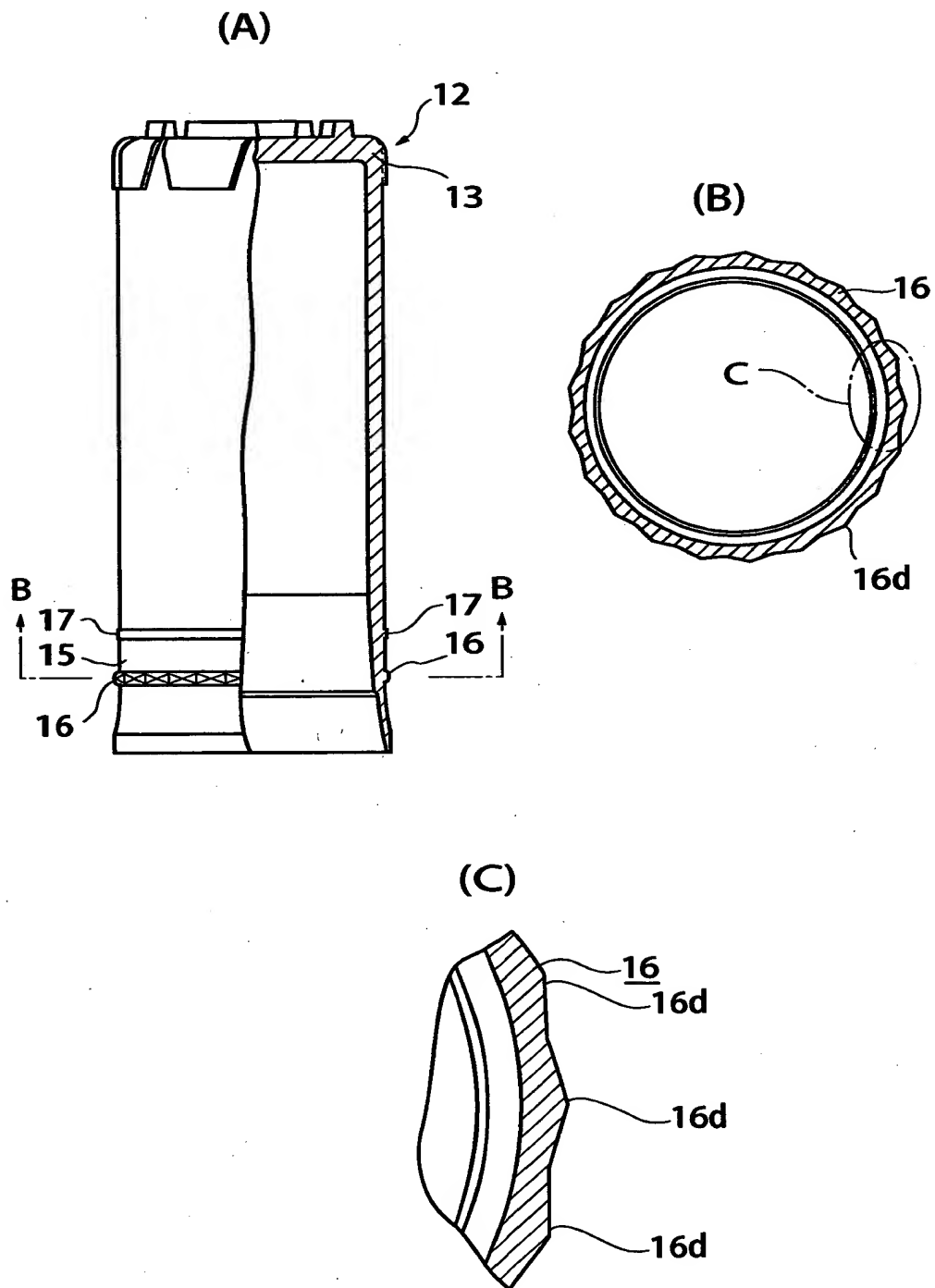
【図11】



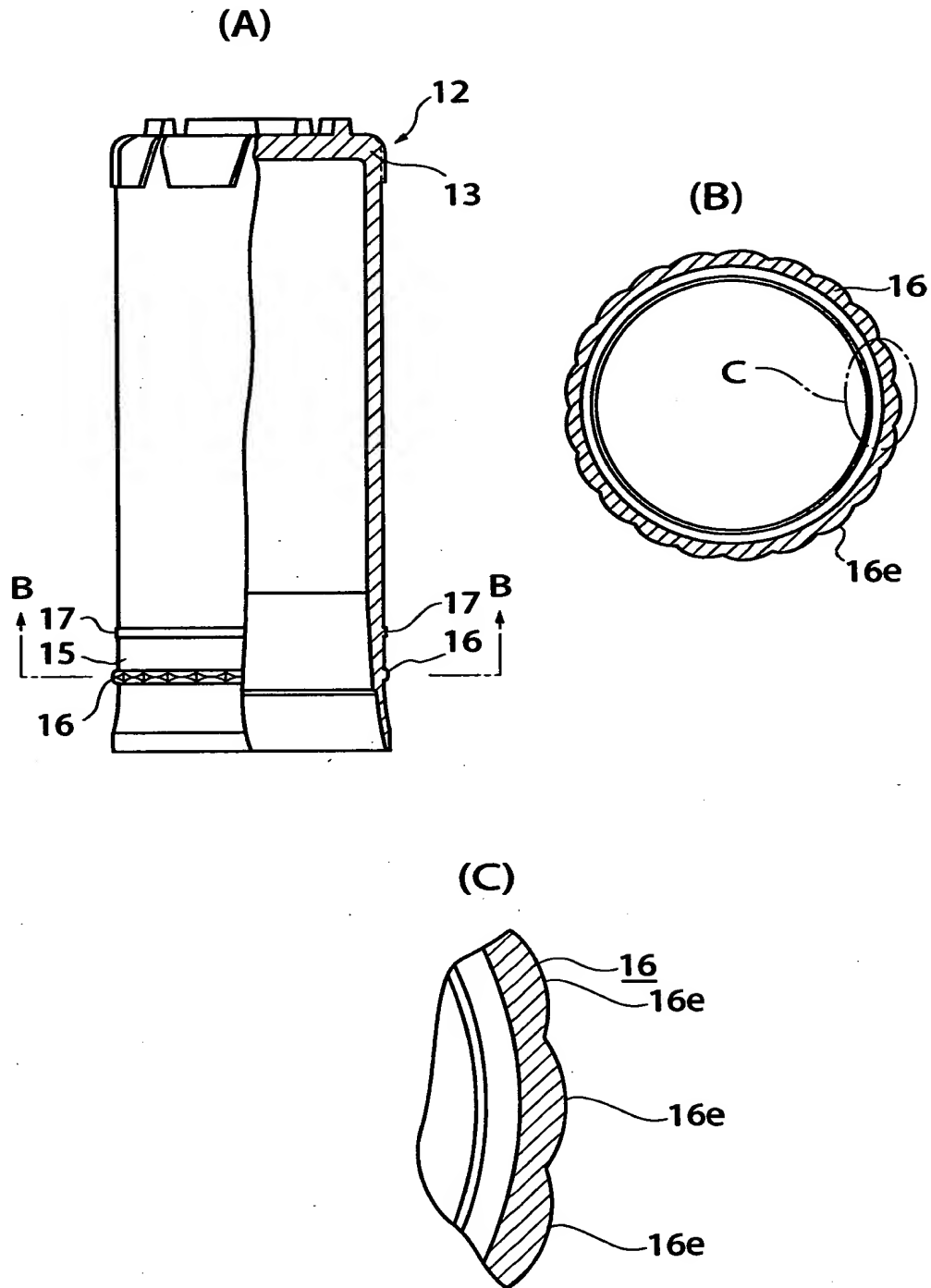
【図12】



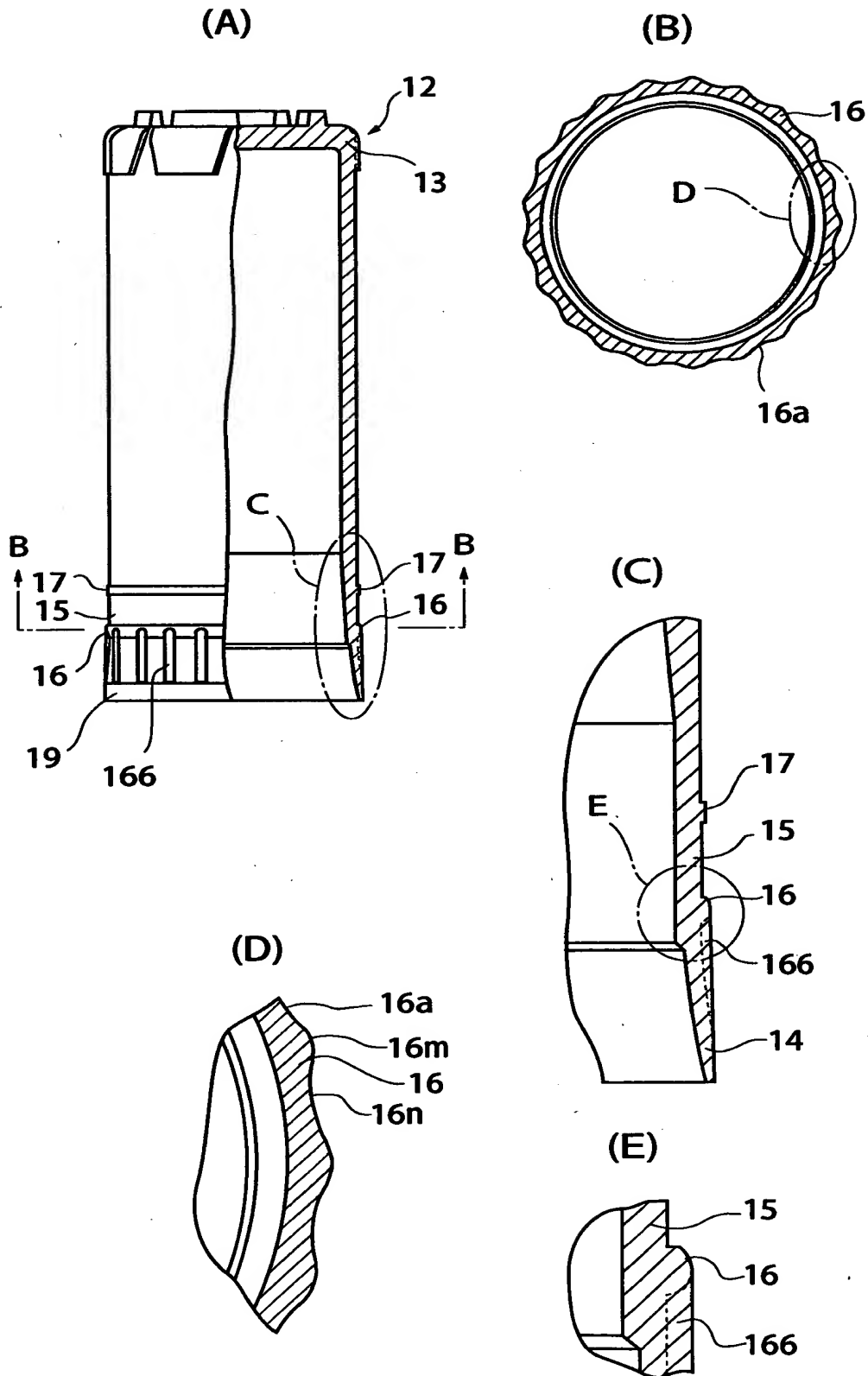
【図13】



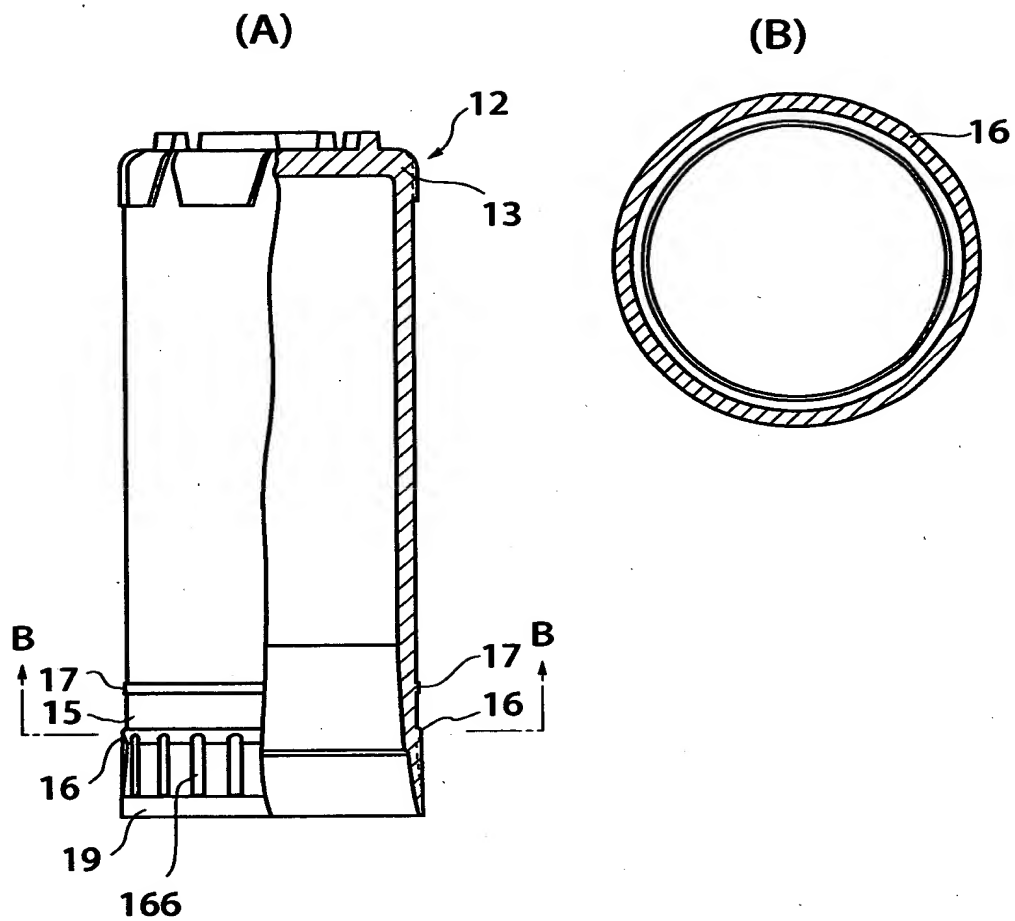
【図14】



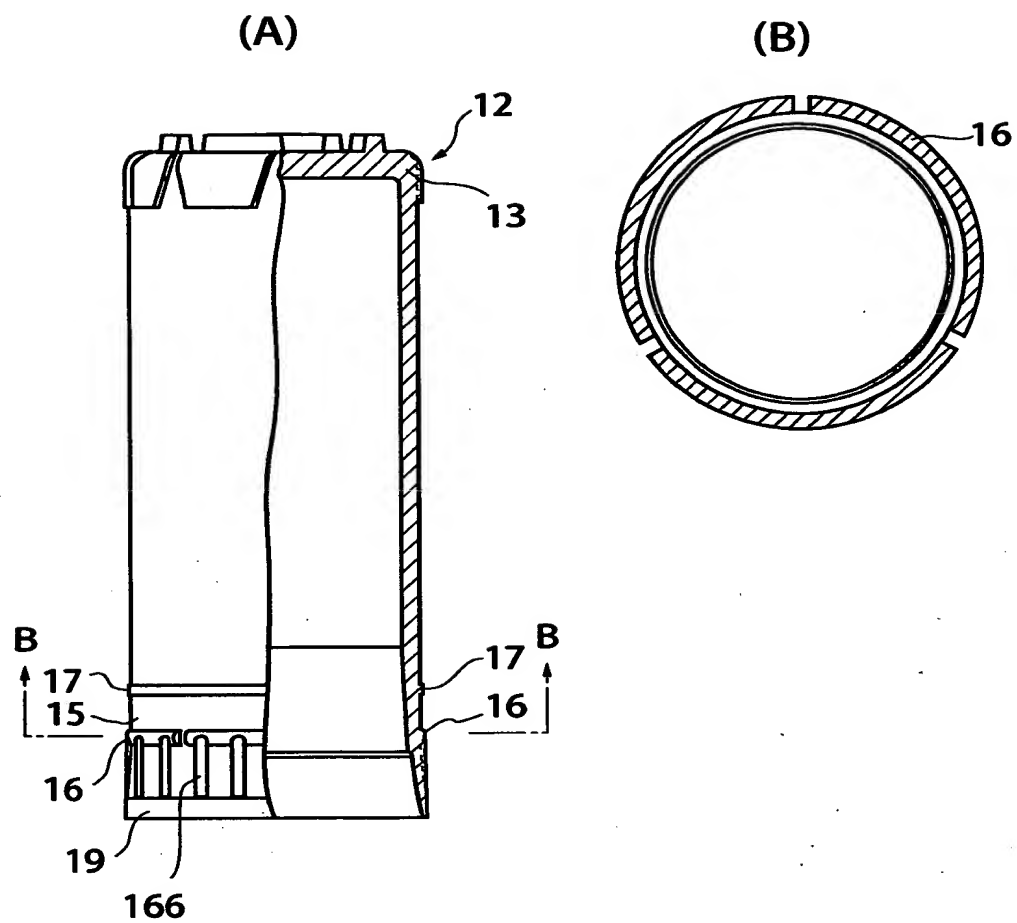
【図 15】



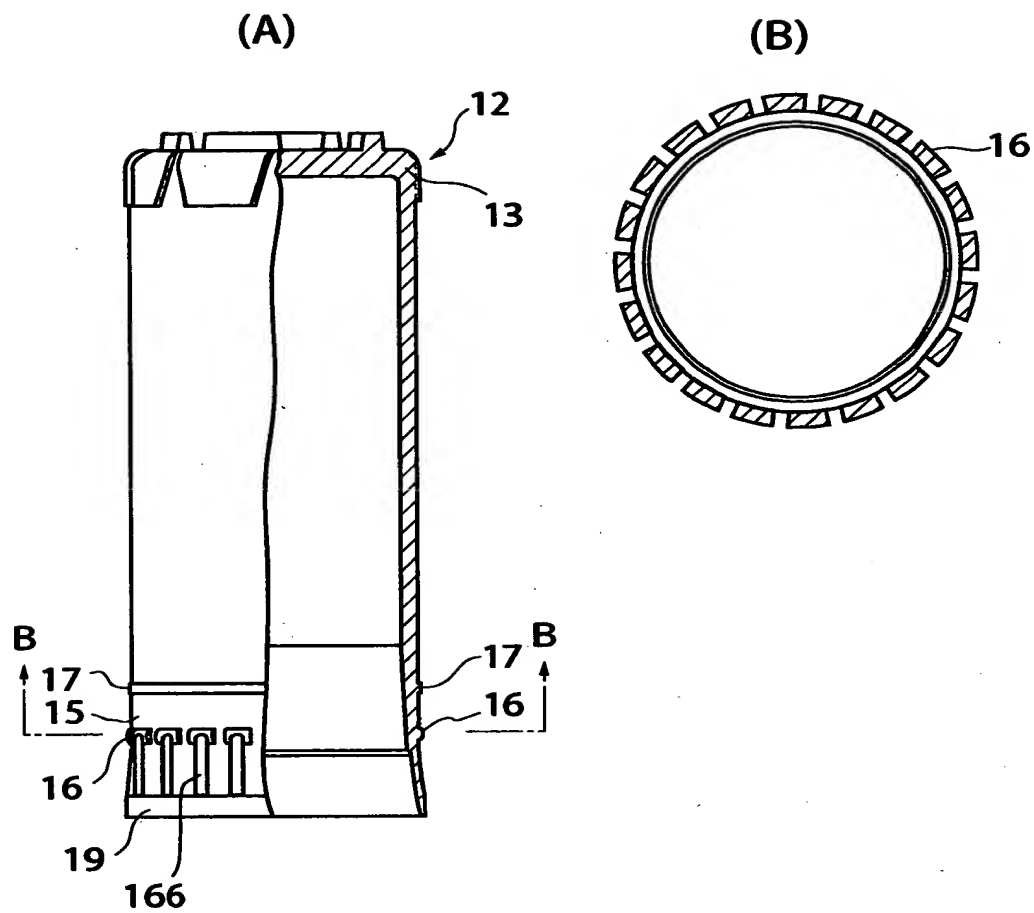
【図16】



【図17】



【図18】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 キャップ嵌合時の気密性保持及び容器の気密性の保持とキャップ嵌合における円滑性の同時達成

【解決手段】 環状突部 8 を備えた中具 7 及び該環状突部に係合するインナーキャップ 12 を備えたキャップ 11 を備える。該インナーキャップは他の部分より肉厚とした上部肉厚部 17 及び下部肉厚部 16 を環状に設けるとともに該上下肉厚部の間に弾性力のある弾性部 15 を設ける。該弾性部は中具がキャップに嵌合される際に環状突部と気密に密着するために変形される。下部肉厚部は断続的に設けられキャップが中具から脱落するのを防止する第一のストッパとして作用する。下部肉厚部 16 はインナーキャップの外周に環状に設けられる環状部 161 と、該環状部 161 の間に点状に設けられる点状部 162 とからなる。上部肉厚部 17 は中具 7 がキャップ 11 へ過度に挿入されるのを防止する第二のストッパとして作用する。

【選択図】 図 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000153926]

1. 変更年月日 1991年 6月24日
[変更理由] 名称変更
住 所 千葉県柏市花野井627番地
氏 名 株式会社ヒダン